

## 第1回新生公立鳥取環境大学設立協議会議事概要

日 時 平成22年10月19日(火) 14:00~15:10  
場 所 鳥取環境大学本部・講義棟3F 大会議室  
出席者 鳥取県：平井知事、横濱教育長、高橋企画部長  
鳥取市：竹内市長、中川教育長、松下企画推進部長  
鳥取環境大学：八村理事長、古澤学長、谷口常務理事

### ○平井鳥取県知事あいさつ

- ・これから皆様と一緒に新しい大学のあり方を極限まで追求をして、地域や県民の皆様、更に全国の学生諸兄に好まれるような、そういう大学づくりを目指していきたいと思う。
- ・鳥取県では、先般、議会を終結させていただき、この協議会発足の承認を得たところではあるが、大学がこれから公立大学として最終的に進んでいくということについては、今後の議論をつぶさに県議会に報告をし、県民の審判を仰ぎながら進めていくようになった。
- ・しかし、時間には限りがあり、我々がやらなければならないことは大変多いわけである。限られた時間ではあるが、ここに事務局を発足させ、そして従来の鳥取環境大学の事務局と連携しながら、鳥取市、鳥取県、そして大学の三者一体となった協議会で検討を深めていくことになった次第である。
- ・今、子ども達の数減っていく中で、魅力ある大学だけが生き残る時代が来ようとしている。
- ・この鳥取環境大学においても、平成13年の開学以来、約10年を経過することになった。
- ・10年ひと昔とは言いが、当時とはずいぶんと状況は変わってきた。あの頃実際に、ここに住んでいる子ども達の高等教育機関の受け皿たらんという志や、地元へ貢献できる大学。更に環境を通じて、我が国や世界へ貢献しようという志は、今でもきちんと生き続けていると思う。
- ・ただ、残念ながら、経営の面だとか、大学の魅力の面など様々な所で、支持を失いつつある関係からか、平成16年頃から急速に志願者が減り、入学者が減ってくるということになった。
- ・ここ3年ほどは、大学、鳥取市、鳥取県で共同戦線をはり、下支えに努めてきた。入学者の減少傾向に歯止めをかけることはできたが、持続可能な成長軌道に乗せるための入学充足率90%余りを確保するところには至っていないのも現実である。
- ・そこでこの際は、考え方を一新し、本当の意味で地域に愛され、保護者、子ども達から、入りたいと願われる大学になるように、生まれ変わらせる必要があると思う。
- ・そのためには、公立化を果たそうというのが1つある。
- ・平成13年にはなかった公立大学法人の制度が、その後発足した。
- ・これにより、公立大学法人に移行した大学が、全国で目立ってきている。
- ・こういう公立化を進めることで、現在の学費の半額ないし、半額以下の53万円レベルまで学費を押し下げることが可能になるかと思う。

- ・これが1つ大学の魅力になると思うし、保護者や子供たちにとっても、親しみやすい、入りやすいという、そういうハードルを下げる働きは、働こうかと思う。
- ・また、国公立志向が本県は7割と非常に高い県であることは間違いのないところであり、こういう意味でも公立化というのは、新しい大学の要素になりうると思っているが、それだけでは十分ではない。
- ・大学の学部学科もやり替え、今大学側で出されている経営学部という新しい学部学科のあり方。また、地域貢献という意味で地域のシンクタンク機能と大学との合一。教科の面でも、研究の面でも、フィールド活動の面でも、大学の学生も含めた幅広い活動ができる、強力な主体に生まれ変わらせることも一助になろうかと思う。
- ・また、対外的にも、この際PRだとか、大学の外の人材の皆さんにもアドバイザーなどで加わっていただき、大学の魅力を増していくことも必要ではないかと思う。
- ・限られた時間内ということにはなるかもしれないが、我々としてぎりぎりまで精一杯の努力をして、いい案を練り上げていく責務が、我々3者にはかかっていると思う。
- ・そういう意味で、未来に対する責任を果たすために、是非とも皆さんの積極的なご賛同を得て、難しいことは、例えば人事の面だとか、大学経営の面でいろいろあるかとは思いますが、それに対して、きちんと正面から堂々と議論して、向き合って解決をしていく。そういう姿勢を皆様方にも出していただきたいと思う。
- ・それでなければ、本当の意味の新生鳥取環境大学には、生まれ変わらないと思っている。
- ・私も微力ながら力を尽くして、子ども達のために、地域のために体をはって、頑張っ  
てまいりたいと決意をしている。
- ・皆様のご支援を賜わらんことを、そして本協議会を通じ、新生公立鳥取環境大学の姿が浮き彫りになり、素晴らしいと言ってもらえる大学に生まれ変わることを祈念申しあげ、私からのあいさつに代えさせていただきます。

#### ○竹内鳥取市長あいさつ

- ・新生公立鳥取環境大学の設立協議会がこうして本日、めでたく発足に至ったことに、共に心から喜び合いたいと思う。
- ・県の関係者の皆さん、大学関係者の皆さん、そして、鳥取市関係者全員が揃ってこの協議会のスタートであるが、それぞれに多くの困難を乗り越えて、今日のこの日に至った訳である。
- ・感慨一入の感があるが、会長からの話にもあったように、限られた時間の中で目的を達する必要があるということで、この関係3者が力を合わせて、心を一つにして、目指す目標を実現して行くことが今強く求められていると思う。
- ・内容的には、公立大学法人化。そして学部学科の再編。3番目には管理運営体制の強化といった3点に集約されると思う。
- ・こうした目指すべき目標に対して、これからの約1年半の期間で、平成24年4月の実現が図られるように、この協議会が中心となって、目標に向かってまっしぐらに進んでいっていただきたいと思う。
- ・この会場に来る前にある人に、「僕らの羅針盤」というちょっとした詩をいただいたので、あいさつの代わりに、締めくくりに紹介したいと思う。

- ・特に事務局の皆さんには、これをお聞きいただけたらと思う。
- ・「時は来た。大海原が僕らを待ち受けている。いざ航海へ出かけよう。荒波にも負けず、暗闇にも負けず。僕らは全速力でオールを漕ぎだす。夜空を見上げたら北極星が輝いている。航海の途中、疲れ果て、迷い、落ち込んでも、僕らには方向を指し示す北極星のような羅針盤がある。迷った時は、志した原点に戻ろう。この羅針盤を読み返そう。そしてまた力強く漕ぎだそう。」という「僕らの羅針盤」という詩であります。
- ・先ほど申し上げた3つの目標。そして、3者がちょうど毛利元就の3本の矢のように1つになって、力強く目標の達成に全力で取り組んでいただくようよろしくお願いしたい。

○中山事務局長 資料1～9説明

○中山事務局長

- ・それでは、議題1と2を合わせ、協議会の進め方、魅力ある大学づくりについて、委員の皆さんのご意見、ご指摘をいただきたい。

○竹内鳥取市長

- ・アドバイザーについて、現在の状況をお尋ねする。

○中山事務局長

- ・アドバイザーの方については、県市の間で候補を挙げ当たっている状況である。何人かにはお話しをさせていただき、既に内諾をいただいている方もいらっしゃる状況である。

○竹内鳥取市長

- ・今後早く全体が分かるようにし、個別にアドバイスを受けるようにしてもらいたい。アドバイザーには、しかるべき時に了解をいただき、公表することだけでも大学の魅力アップにつながると思う。いろいろと活かしていただきたいと思う。
- ・なお、会長とお話しをして煮詰めていく必要があるが、新生公立鳥取環境大学設立協議会では時間が限られている。大学の魅力アップは、公立化後も引き続き、継続的な課題でもある。少し長期的な視野を入れながら、構想することが重要だと思う。
- ・魅力アップについては、長いスパンで考えていく。この新生公立鳥取環境大学設立協議会では、3本の柱に力を注ぐ必要があると印象を持っている。
- ・魅力アップについては、是非継続的に公立化後も引き続き大きな課題として位置付けて大学は取り組んで欲しいし、鳥取市も改革推進室をこの度設けた。
- ・この組織については、平成24年度に公立化後も存続させ、鳥取環境大学を鳥取市の立場から改革推進を図る組織を考えている。今後の検討に活かしていただきたい。

○中川市教育長

- ・早急な課題としてカリキュラムが挙げられている。編成する上で、県内の大学との連

携、具体的には鳥取大学、鳥取短期大学との単位互換などの上での連携など考えているか。

○中山事務局長

- ・現在のところは、まだそこまでの議論には至っていない。今後、カリキュラムを組む上で、シンクタンクだけでなく他大学との連携は非常に重要なキーワードになると思う。今後、鳥取環境大学と協議を行い、細部にわたって詰めていきたい。

○中川市教育長

- ・大学の魅力づくりの一つにここの大学に来るといろいろ資格が取れるということが大きなことだと思う。例えば鳥取大学と鳥取短期大学との間では、図書館司書が取れるような連携をしていると思う。新生大学で教職課程がとれるようになるとそれが魅力となると思うので、是非検討をお願いしたい。

○古澤学長

- ・今、基本構想を練っているが、今言われたことも十分に検討していきたいと思う。資格取得も十分に考えていきたいと思う。

○横濱県教育長

- ・資料6のアンケートについてであるが、4の「環境大学の進学先候補としての意識」の中では、高校生、保護者、高校教員の回答では候補にならないという回答が多い。
- ・また、5の「環境大学が公立化された場合における進学候補対象となる可能性」という質問では、高校教員は候補となると7割回答しているが、高校生、保護者では候補にならないという回答が多くなっているため、ここに問題があると思う。
- ・アドバイザーまでとはいかなくても、高校現場を回っているベネッセや河合塾など業者の意見をどんどん聞く機会を設けていただきたい。

○古澤学長

- ・言われるように、学校の先生以外は勧めないと回答しているが、高校2年生からアンケートをとっていて、まだ大学との接触が少ないと思う。
- ・これまでの感覚で回答されたのかなと思う。保護者も同じかなと思う。校長先生、教頭、進路指導の先生までは入り込むことができるが、なかなか、生徒、保護者の気持ちまで入っていくのが難しい状況にある。このあたりが大きな課題だと思っている。

○高橋県企画部長

- ・先ほど事務局より県議会、市議会の意見について報告があったが、9月県議会では血のにじむような努力をしたのか、魅力ある大学づくりをしたのか、求められているところだと思う。
- ・今後長いスパンでやるもの、すぐにやらないといけないものがあると思う。特に、カリキュラムを変えるということは、大学自体を作り変えていくものだと思うので、大きなポイントだと思う。鳥取県の置かれた立場を考えたカリキュラムにしてほしいと

ということである。経済界、北東アジアとの関係、環境立県を推進している立場、マンガ王国を今後目指していくこともある。こういう問題を踏まえた議論を行った上でのカリキュラムにしていきたい。また、公立化という点から全県的、中部西部地域への知の還元も考えていく必要がある。トルク（(財) とっとり地域連携・総合研究センター）との連携をはじめとする地域貢献の施策をどうするのか。どうぞよろしくお願ひしたい。

#### ○古澤学長

- ・大学の魅力づくりは、まさにカリキュラムづくりから始まると思う。カリキュラムは教員にかかわるので、大学の魅力はどのくらい教員が素晴らしいかによるものだと思う。教員の資質によって大きく大学の魅力は左右される。これまでの教員の活動が外に向かってなかなか見えにくかったかもしれない。今回のカリキュラムはその辺をしっかりと議論していきたい。

#### ○松江市企画推進部長

- ・事務局に一つお願ひがある。市議会の方は、比較的理解をいただきながら進めてきた。県議会の議論にありましたが県民・市民への情報提供を、しっかりと意識しながらやっていただきたい。また、マスコミの皆さんへの情報提供を意識しながら業務に取り組んでいただきたい。

#### ○高橋県企画部長

- ・県議会でも資料にもあるが付帯意見が出されている。協議会の協議状況を逐次県議会へも報告するように意見が付いているので、よろしくお願ひしたい。

#### ○平井鳥取県知事

- ・一通り、皆さんのご意見が出た訳である。
- ・多少重複するかもしれないが、私は、大学を変えないといけないと思う。
- ・これまでの10年間を総括しろという意見が県議会からもあった。経営責任を取れという意見も乱発的に出ている。
- ・今までのやり方を一新して、これを一つのチャンスとして大学を新しく生まれ変わらせなければいけない。
- ・直視していただきたいのは、これまでの公設民営ということで民営での運営で独立していたが、大学自治はさて置き、公立大学となれば納税者に説明責任を果たさなくてはならない。説明責任を果たせる体制を作っていかななくてはならない。これまでの経営とは断層を設けて変えていかななくてはならない。県民をパートナーとしてやっていかななくてはならない。
- ・これまでは、理事会の中での説明責任から、今後は県議会、県民へ直接説明責任を果たしていく立場になることを自覚しなくてはならない。
- ・大学当局だけではなく、我々執行部も同じ気持ちでやっていかななくてはならない。
- ・そういう目で見ると、従来からのやり方を一新して、何と何が変わったと皆さんに受け止めてもらう必要がある。

- ・平成24年度から公立化して授業料が安くなる。公立大学になれば高校生に勧めやすい大学になるということを、受験雑誌など高校生や保護者の目に触れる媒体にPRし、従来の大学と違う大学に生まれ変わったことを訴えかけて理解してもらう必要がある。思い出してみると環境大学ができたときも受験雑誌にPRしていたと思う。そういうことも必要である。
- ・従来の鳥取環境大学が、ただ公立大学に移行するイメージではない。また、学部学科の改編、カリキュラムの編成も大変な難しい作業になると思う。
- ・先ほども議論に提議されたが、例えばマンガテイストのカリキュラムを教養、地域経営のレベルで入れることが可能かどうか、事務に当たっている大学皆さんの意見を聞いてみたいと思う。
- ・カリキュラムを変えると大幅な教員の入れ替えになることも覚悟の上で大学は改革案を出されたと思うが、それを私は是としてこの問題に向き合うこととした。
- ・そうした場合で、新陳代謝で新しい教員が入ってきた場合、公立大学になり教員の募集がやりやすくなると思うが、質もどうなのか、見込みがあるのか感想をお聞きしたい。
- ・学生の皆さん、今後入ってくる学生さんへ魅力ある大学を訴えかけていく仕掛けを意識的に作っていくことが大切である。特に中西部に対する意識づけがあまり見えてきていないと思う。オープン講座、公開講座をやるなど、この協議会で話し合うことも一つの手であると思う。
- ・シンクタンクとの連携では、例えば研究員に教壇に立つてもうことや大学の学生と一緒にフィールドワークをやりやすくなるか、大学当局はどのような感想を持っているのか、お聞かせいただきたい。
- ・いずれにしても、我々は、今日、大学が生まれ変わることを共通認識できたことが、本日の役割だと思う。

#### ○八村理事長

- ・本日は、この新生公立鳥取環境大学設立協議会ということで、この協議会を立ち上げていただいて感謝する。
- ・今、知事の方から、県議会でも経営責任ということが出たとおっしゃられたが、その責任を十分に感じているところである。
- ・今回のこの改革については、鳥取環境大学としては、みんな新しい大学を作るという覚悟で向かっている。それが、県民の皆様方に大いに愛される大学にならないといけない。
- ・その大学の魅力の一番の所は、さっき学長が申したように先生だと思う。
- ・現在でも、先生によっては、日本各地から、この先生に学びたいという学生が来ている。
- ・そういうものが県内でぐっと広がってくればいいのではないかなと思う。
- ・今後、経営体制はもちろんのこと、様々な諸規則なども一切変えていかないといけないと思うので、大変な作業になると思う。
- ・まず、一番は、やはり先生をいかに確保するかが重要である。

## ○古澤学長

- ・大学の一新については、確かに今のままでは、元の流れになってしまう危険性もある。
- ・この一新したということ、高等学校の生徒さん、或いは保護者まで周知できるシステムを作らないといけない。
- ・そこはしっかりと対応していきたい。
- ・それからマンガのことであるが、新しくマンガサミットも開かれるし、すべての学生がというわけではないと思うが、そのような魅力も部分的にあるということに関しては、まったく問題ないと思う。
- ・骨格として、今我々は2つの学部と全体のカリキュラムの基本を考えているが、そこにいろんな花をつけていくということには、まったく問題ないと思う。
- ・そのような意味では、例えば、テレビに出ておられる方、有名な方に講義を開いていただくとか、或いは企業のトップに講義を開いていただくとか、そのようなことはまったく問題ないと思う。現在でもやっているし、そのようなことはやっていけばいいと思う。
- ・それから、公立化すると、教員の方々も非常に魅力を感じておられるし、安定感もあるので、採用する部分では非常にプラスになる。
- ・大学づくりは、すべて先生づくりにかかわると思う。これは、私一人ではなかなか人脈というものも持っているの、中央になれる先生をまず持ってきて、その先生方の人脈も利用しながら人を集めてくるということをやらないと、いい集まり方はしないと思う。
- ・先ほど、トルクの話も出ていたが、大学がいろいろな研究所を持つということは、非常にステータスにつながります。
- ・京都大学は11大きな研究所を持っており、日本で一番たくさん持っている。それは、やはりステータスシンボルである。
- ・規模は異なるが、我々もサステナビリティ研究所を作ったこともあり、トルク（(財)とっとり地域連携・総合研究センター）がそのような形で研究と教育ができるのであれば、その方々も教育に携わることもできるであろうし、研究そのものも、学生、教員との連携ができ、より一層活力ができるのかと思う。
- ・私個人としては、まったく問題なく、非常にいい方向だと思っている。
- ・魅力ある大学は、やはり先生の質。プラス先生の活動みたいなものが見えないと、いけない。そのような活動が見える形を作らないと、魅力ある大学にはならないと思っている。
- ・資料4には、たくさんの項目が出ているが、いずれも重要だと思う。ただ、優先順位というのはあるかなと思う。
- ・というのは、人事は、我々だけでできる問題ではなくて、相手がいることである。
- ・この辺りをしっかり早く進めないとなかなか大学づくりはできないかなと思っている。
- ・これは、時間も限られているので、公募に加えて人脈で来ていただくような形を作らないと、間に合わないのかなと思っている。できるだけ早くスタートできる形ができればと思っている。

## ○谷口常務理事

- ・大学の魅力づくりに関連することであるが、大学の内部でも学部学科改編の様々な検討を進めてきた。
- ・もう1つ、大学の現在の運営の改革ということを大学の内部で議論してきた。
- ・特に学生のアメニティ向上とか就職対策。我々の大学内部だけで議論して、このようなことを優先すべきではないかというような項目も挙がっている。
- ・今後、新たに生まれ変わるといような大学のシステムづくりの中で、我々として検討してきたことも挙げたいと思うので、是非ともご議論をお願いしたい。

#### ○竹内鳥取市長

- ・鳥取市議会でのいろんな議論や、市民でのいろんな議論を聞いていると、県議会と同じく、十分に今後の展開について説明を求めたいという声はかなりある。
- ・こういった声に対しては、協議会が定期的に関われ、一定の段階的なまとめをしていて、動きが見えるということは大変大事であり、それが説明責任になると思う。
- ・議会の時は、それぞれ議会の場で、県議会、市議会、お話する機会は当然あるが、これからの1年半の間で、日頃の協議会としての議論の煮詰めとか、方向づけとか、そういうものが、見えていくというのは非常に大事ではないかと思う。
- ・協議会の運営については、そのようなことを事務局とも十分相談していきたい。
- ・資料4の協議事項で、優先順位もいろいろあるというようなこともある。
- ・第1回でそれを全部議論できないが、それぞれの時点で必要となるものが、まさに優先順位が高く、その時点で議論された方向づけをしなければいけない。そういったことをしっかりやれるようにすべきだと思う。
- ・またそれを、外部に対しても情報発信していくということが大事だと思う。
- ・それと、このような動きはすでに多くの方の注目するところとはなっていると思うが、来春の志願者の増にもつなげなければいけないということを意識して取組を進めていかなければいけないと思う。
- ・大学としては学生募集のいろんな機会があるので、そのような時に、この新生公立鳥取環境大学の動きについて、別紙でも入れて、いろんな状況を伝える。
- ・それから入学した学生に対して、平成24年からということになると、途中から変わるということが、どのような意味を持ってくるか。どのようなメリットがあるかなど、説明できる点は多々あるかと思うので、併せて、何らかの説明をしていかなければいけないのではないかと思う。
- ・協議会の運営に関してと、それから来春に向けたこの新生公立環境大学の取組が大きな効果が上げられるようにということを要望したい。
- ・来春入る学生は、2年、3年、4年と3年間は、新しい大学の学生になるわけである。
- ・そういったことに関しても、本人の入学時での認識も大事であるし、今からも伝えていく必要があるといった点を感じているので、是非協議会の中の運営及び大学の取組において、生かしていただきたいものと思う。

#### ○平井鳥取県知事

- ・入学志願者に対してもしっかりとPRし、現在の大学のベースであるが、この検討が始まったことにより効果ができるように、しっかりと取り組んでいただきたいと思う。



- ・先ほど学長がお話しされたが、人事を組んでいく作業はなかなか大変だと思うので、相談をしながらやっていきたい。人事案をつくることに向けてスタートを切ることはいかまわないと思う。
- ・公立大学である以上、この協議会なり、経営者である県民、市民の承認をいただき、認知された上で進む必要があると考えている。
- ・その際に、県民、市民から出ているいろんなご意見、環日本海の問題、中川教育長が言われた単位互換はあっていいと思うし、提携しかけているウラジオストックの国立経済サービス大学との単位互換なども検討していき、少し従来とは舵を切ったことを出したい。
- ・また、人事の面でも特任教授のような、全国的にも著名な方に教えてもらえる機会があるというイメージが出るように、まず先生を決めてかかると。アドバイザーにもそういう方を据えていくと。そのようなことで、もっと安心して大学の門が叩けるように変えていく必要があると思う。
- ・いろいろと山積する課題はあるので、随時協議会を開いたり、随時協議をさせていただき、県議会、市議会にも報告しながら、検討を深めていきたいので、是非ご協力をいただきたい。

#### ○中山事務局長

- ・予定しておりました時間を若干超過しておりますので、ここで会議の方を閉めたいと思う。
- ・本日は、大学が生まれ変わるという点で様々な意見をいただいた。
- ・協議会事務局或いは環境大学ともいろいろ協力し、しっかりと受け止め、新しい点をまた協議会の場でご議論いただきたいと思う。
- ・できるだけ頻繁に、また皆さんのご日程をとっていただき、活発な議論を今後重ねていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

以 上